

乙女高原ファンクラブ作成 ポストカードタイプ乙女高原カレンダー2024 解説

グラフィックデザイナーの杉田 博さんが乙女高原のカレンダーを作って、ファンクラブにご寄附いただくのは4回(年)目となります。今回は、乙女高原の草花たちを、時期の違う数枚の写真で紹介しています。人の一生を見ると、小さい頃は電車オタク、高校生のときはサッカー部、大人になったらサラリーマンなど、そのライフステージごとに、いろいろな顔がありますよね。草花も同じです。草花の写真というと花の時期をとらえたものが圧倒的に多いですが、ライフステージごとにいろいろな「顔」が見られます。何度も乙女高原を訪れて、そんな植物たちの、様々なライフステージの様子をそっと観察してみてください。思わぬ発見が待っているかもしれませんよ。(乙女高原ファンクラブ代表世話人 植原 彰)

フデリンドウの蕾はうず巻きがチャーム・ポイント(4月)。梅雨の時期にたねが熟すと、空に向かって大口を開け、雨粒が命中するのを待ちます。雨粒が入ったら、その勢いでたねが飛び出ます(7月)。

マムシグサの名の由来は、地上に出て来た芽の形と模様から(5月①)。カバーの付いた筒状の花には雄花と雌花があります(正確には雄株と雌株。5月②)。実は「赤いトウモロコシ」という感じですが、食べてはダメ(11月)。毒で口がヒリヒリします。でも、鳥は食べるんですよね。

ヤナギランの芽は最初、こんなふうに渦を巻いているのがおもしろい(5月)。花が咲いたあと、とてもたくさんのたねができます。たねはとても小さく、わた毛がついていて、風に乗って旅に出ます(8月)。



梅雨のころ、森の中に咲くギンリョウソウの芽はまるで卵みたい(6月①)。下向きの花にはマルハナバチが訪れます(6月②)。実はまるで目玉親父のようです(6月③)。実の中には、吹けば飛ばすようなちっちゃなたねがたくさん詰め込まれています(10月)。

オオバギボウシの若い蕾は、そのまま上向きの一つの花が咲くのではないかと錯覚させられますが(7月①)、蕾がだんだん伸びて、そこにたくさんの横向きの花が咲きます(7月②③)。秋の終わり、葉はどんどん透明になっていきます。まるで上の皮と下の皮の間の薄い層が溶けていくようです。透き通るような白い色になり、枯れていきます(11月①)。実が熟すと二つに割れ、中から真っ黒なたねが現れます。たねには翼が付いていて、これでちょっぴり空を飛びます(11月②)。

PDFでのカレンダーも用意しています。
A4判で印刷もできます。 こちら →
<https://fruits.jp/~otomefc/2024calendar.pdf>



乙女高原の自然をみんなで大切にしましょう!
乙女高原ファンクラブについて知りたい方はこちら→
<https://fruits.jp/~otomefc/>

